

いのちの輝きを見つめる

Meiji

第146期

中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

CONTENTS

株主の皆様へ	1
営業の概況（連結）	2
中間連結貸借対照表	6
中間連結損益計算書 / 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
中間貸借対照表（単独）	8
中間損益計算書（単独）	9
業績の推移 / 連結対象子会社	10
 News	11
新製品紹介	12
トピックス	14
役員 / 従業員 / 主要な事業所	16
株式の状況	17

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は平成16年9月30日をもちまして、第146期営業年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、ここに中間事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告申し上げます。

当上半期の業績につきましては、後掲の「営業の概況」に記載のとおりであります。当社グループを取り巻く環境は、食料事業におきましては、原材料の高騰や低価格化の定着に加え、引き続き消費低迷のなかでの競争が激しさを増しており、また、消費者の食品に対する安全・安心面での要求も高いレベルとなっております。薬品事業におきましても、医療費抑制策による薬価の大幅引下げの影響、グローバルな新薬開発競争に伴う研究開発費の増高等、今後も厳しい状況が続くものと予想されます。

こうした状況にあって、当社グループは、さらなる事業発展計画の推進を期し、昨年度、中期経営計画「チャレンジ2005」を策定し、2005年度に過去最高を上回る利益水準を実現するために、大胆な構造改革に鋭意取り組んでおります。

そのため当社グループは、「健康」をキーワードに食料・薬品・ヘルスケアの主力3事業でシナジー効果の共有化による新たなビジネスモデルを確立し、より強固な事業基盤を構築するとともに、海外事業では、特に中国を中心に業容の拡大を図り、収益基盤の強化を目指してまいります。

さて、かねてより建設を進めてまいりました京橋の新本社ビルがこの10月末に完成いたしました。これを機に

社員一同気持ちを新たに一層業務に邁進する所存でございますので、今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

なお、当期の中間配当金につきましては、すでにご案内申し上げましたとおり、1株につき金3円50銭と決定させていただきましたので、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月

3

営業の概況（連結）

当上半期におけるわが国経済は、堅調な景気回復を続け、企業収益や民間の設備投資は顕著な増勢を示し、個人消費も緩やかな改善傾向を辿っていますが、期初の輸出や生産の伸びが鈍化し始めており、また、原材料の高騰等も加わり、先行きに不透明感が漂う環境下に推移しました。

一方、海外におきましては、世界経済は着実に回復傾向にあるものの、米国・中国の金融引き締め政策が顕在化し始めており、景気の減速が懸念される状況下に推移しました。

このような事業環境下、当社グループは、「市場競争力の強化による事業拡大」「収益力強化につながる体質改善・コストダウン」を主な経営方針に掲げ、各事業分野にわたり強靱な企業体質の確立と売上の拡大および収益力の向上に努めましたが、大幅な減収を余儀なくされました。

この結果、連結売上高は1,677億50百万円（前年同期比2.5%減）となり、また、事業構造改善費用を特別損失に計上したため、連結中間純損失31億19百万円（前年同期連結中間純損失10億13百万円）となりました。

当社グループのセグメント別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

、互齒客失1ツ錘兎狩牙慧鯨幾臘胡同交Rヴ鼠月にわ書

食料事業におきましては、市場の低迷に加え、期前半からの異常気象による需要の減退や低価格化の定着等で極めて厳しい事業環境下に推移しました。

このような状況のなか、当社グループは、消費者ニーズとトレンドを先取りした差別優位性のある新商品開発や戦略的なブランド別トータルマーケティング諸施策の展開により売上の拡大に努めましたが、本年4月より菓子卸店との取引制度の変更による減売要因も加わり、連結売上高は1,073億54百万円（前年同期比3.5%減）となりました。

菓子について品種別にみますと、チョコレートは、重点商品を中心に積極的な販促活動を展開しましたが、記録的な猛暑や競合品との競争激化で減

売となりました。主力の「ミルクチョコレート」と「ブラックチョコレート」はカカオ成分の健康訴求による需要喚起を図り、順調に推移しましたが、「アーモンドチョコレート」はナッツ系市場の低迷で減売を余儀

なくされました。チョコスナックの「きのこの山」「たけのこの里」は積極的な販促キャンペーンに加え、新規の季節限定商品を投入して前年同期並みの売上を確保しました。また、「フラン」は新商品「リッチフラン」を追加して、品揃えの拡充とブランドの活性化を図

ております。なお、本年9月に新商品「ショパン」「うすまきアーモンド」を発売して、売上に寄与しました。

キャンデーは、主力の「チェルシー」が競争激化で苦戦を強いられましたが、グミは新商品の発売などにより堅調に推移しました。

ガムは、主力の「キシリッシュ」はボトルタイプが好調に推移したことに加え、「梅ミント」を投入して、販路拡大に務めるなど積極的なマーケティング活動を展開し、前年同期並みを確保しました。

スナックは、主力の「カール」袋タイプは販促キャンペーンにより順調に伸長しましたが、全体としては競合品との競争激化で減売となりました。

ビスケットは、「マクビティ」および「コパン」にリニューアル品を投入し、

総じて堅調に推移しました。

なお、P&G社との提携商品「プリンクルズ」およびファイザー株式会社との提携商品「薬用リスティンボケットパック」は、販売開始後1年が経過しましたが、売上は安定的に推移しております。

一方、海外連結子会社の業績につきましては、明治製菓シンガポール社は、現地市場での積極的な販促活動の展開により、売上は前年同期並みを確保しており、スタウファー・ビスケット社も米国内の販路拡大策が順調に進捗し、売上は堅調に推移しました。

菓子主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ブラック、ストロベリー、メルティーキッス、ボルテ、アーモンド、アーモンドクラスト、マカダミア、うすまきアーモンド、フラン、きのこの山、たけのこの里、ホルン、ガルボ、レガ、ボーダ、ショパン、ブッカ、アボロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、キャラメル、キャンデー（チェルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ポイフル、キュン、もぎもぎフルーツほか）、ガム（キシリッシュほか）、スナック（カール、カールスティック、北海道ポテト、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

食品について品種別にみますと、ココアは、消費者にその健康効果が認知され市場が拡大するなか、主力の「ミルクココア」に新商品「おいしいココア」を

追加し、引き続き堅調に推移しました。なお、昨年8月発売の高ポリフェノール含有商品「テオプロ」も新規格品を追加して市場の拡大を図っております。

レトルトカレーは、市場の低迷と低価格化のなか、主力の「銀座カリー」

シリーズはブランド力強

化のための店頭販促活動が奏効し、順調に売上を伸ばしました。

健康食品は、企業間競争が激化するなか、主力の「パーフェクトプラス」シリーズに新商品とリニューアル品を投入し、堅調に推移しました。

一方、業務用食材は、新販路の開拓に努めましたが、競争の激化で減売を余儀なくされました。

なお、国内連結子会社が販売する砂糖につきましては、主要取引先との取引条件の変更により減売を余儀なくされました。

薬品事業におきましては、本年4月に実施された業界

ヘルスケア事業におきましては、健康食品は、消費者の健康維持に対する関心の高まりから市場は拡大しておりますが、新規参入企業も多く、開発・販売競争が激化する事業環境となりました。

また、一般用医薬品は、市場の縮小と価格の下落傾向のなか、企業間の事業統合の動きも表面化しており、シェア獲得競争が一段と激しくなる状況下に推移しました。



このような状況下、当社グループは多様な消費者ニーズに応じた新商品の開発と、主力品のブランド力向上のためのマーケティング活動を展開しました結果、連結売上高は98億57百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

内容別にみますと、健康食品は消費者の健康志向の高まりから、主力の「ザバス」は、消費者へのブランド認知向上のための販促活動の展開に加え、積極的な新商品の投入が奏効して売上は好調に推移しました。また、「アミノコラーゲン」もアイテム数の拡充とマーケティング活動の強化により大幅に伸長しましたが、「ローラ」は競合品との競争激化で減売となりました。なお、シニア市場をターゲットにしたサプリメント「カラダナビ」シリーズは苦戦を強いられましたが、着実な普及活動を展開して市場の拡大に努めております。



一方、一般用医薬品におきましては、主力の「イソジン」各種製剤は価格競争が激化するなか、うがい・手洗いの啓蒙普及活動と宣伝・販促キャンペーンが奏効し、前年同期並みの売上を確保しました。また、ミニドリンク剤「活蔘（かつじん）28」は、効果的な店頭販促活動により、その効能が消費者に認知され好調に推移しました。

なお、国内連結子会社の事業はスポーツクラブ施設の経営です

ヘルスケア主要製品

健康食品（カラダナビ、ザバス、ローラ、アミノコラーゲン、パーフェクトプラス、プロテインダイエットほか）、
一般用医薬品（イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、外用消毒薬イソジンS、水虫・たむし治療薬バイクリアプラス、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルピックス顆粒、ミニドリンク剤活蔘28ほか）

ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業他につきましては、大規模ビルの供給過剰による賃貸料の下落に加え、テナント企業の退去や事業縮小の影響もあり、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」の入居率が低下するなど、厳しい環境下に推移しました。

この結果、ビル賃貸事業他の収入は13億82百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

科 目	当中間期	前 期	科 目	当中間期	前 期
	(平成16年9月30日現在)	(平成16年3月31日現在)		(平成16年9月30日現在)	(平成16年3月31日現在)
資産の部	329,906	330,059	負債の部	177,787	173,068
流動資産	151,075	154,610	流動負債	85,021	95,052
現金および預金	21,290	11,271	支払手形および買掛金	24,820	27,339
受取手形および売掛金	66,390	74,034	短期借入金	23,895	20,110
棚卸資産	48,397	51,231	コマーシャルペーパー	-	4,000
繰延税金資産	4,961	5,172	未払費用	10,879	12,149
その他の流動資産	10,093	12,961	未払法人税等	910	4,305
貸倒引当金	57	60	賞与引当金	5,008	5,107
固定資産	178,830	175,448	売上割戻引当金	3,767	5,550
有形固定資産	142,056	138,821	その他の流動負債	15,738	16,490
建物および構築物	70,819	69,303	固定負債	92,766	78,015
機械装置および運搬具	37,613	33,852	社 債	40,000	20,000
工具器具備品	2,354	2,406	長 〇 y y プ		
土地	25,119	25,106			
建設仮勘定	6,150	8,152			
無形固定資産	4,228	3,457			
連結調整勘定	2,111	2,161			
その他の無形固定資産	2,117	1,296			
投資その他の資産	32,545	33,169			
投資有価証券	28,507	28,949			
長期繰延税金資産	217	242			
その他の投資	4,788	4,962			
貸倒引当金	967	984			
資産合計	329,906	330,059			

科 目	当中間期	前 期	科 目	当中間期	前 期
	(平成16年9月30日現在)	(平成16年3月31日現在)		(平成16年9月30日現在)	(平成16年3月31日現在)
資産の部	299,582	298,881	負債の部	156,021	150,850
流動資産	126,361	128,966	流動負債	65,733	77,946
現金および預金	15,550	5,551	支払手形および買掛金	20,879	22,738
受取手形および売掛金	54,031	61,869	短期借入金	14,959	13,059
製品・半製品	23,388	27,114	コマーシャルペーパー		4,000
原材料	8,968	7,549	未払金	8,771	7,522
仕掛品	8,657	9,070	未払費用	8,201	9,812
繰延税金資産	4,011	4,252	未払法人税等	209	3,427
その他の流動資産	11,765	13,578	賞与引当金	4,042	4,188
貸倒引当金	12	21	返品調整引当金	60	60
固定資産	173,221	169,915	売上割戻引当金	3,767	5,550
有形固定資産	125,377	122,414	その他の流動負債	4,843	7,587
建物および構築物	65,164	63,820	固定負債	90,287	72,904
機械装置	30,393	26,530	社 債	40,000	20,000
車両運搬具	56	57	長期借入金	16,526	18,742
工具器具備品	1,985	2,035	長期繰延税金負債	10,944	12,724
土地	21,951	21,966	退職給付引当金	18,699	17,199
建設仮勘定	5,826	8,002	役員退職慰労引当金	400	357
無形固定資産	1,481	632	その他の固定負債	3,717	3,880
投資その他の資産	46,362	46,869	資本の部	143,561	148,031
投資有価証券	25,689	26,417	資本金	28,363	28,363
関係会社株式	16,407	16,084	資本剰余金	34,937	34,935
出 資 金	457	567	寛 々 等 株 金 庫 騰 越 文 益 等 五 選 託 蓄 等		
関係会社出資金	1,482	1,409			
長期貸付金	1,411	1,494			
その他の投資	1,879	1,874			
貸倒引当金	966	977			
資産合計	299,582	298,881			

中間損益計算書(単独)

(単位 : 百万円)

科 目	当 中 間 期 (平成16年 4 月 1 日から 平成16年 9 月30日まで)	前 中 間 期 (平成15年 4 月 1 日から 平成15年 9 月30日まで)
(経 常 損 益 の 部)		
営 業 損 益 の 部		
営 業 収 益	120,708	124,288
売 上 高	120,708	124,288
営 業 費 用	120,592	123,647
売 上 原 価	58,597	60,888
返 品 調 整 引 当 金 戻 入 額		10
販 売 費 お よ び 一 般 管 理 費	61,994	62,769
営 業 利 益	116	640
営 業 外 損 益 の 部		
営 業 外 収 益	1,933	2,249
受 取 利 息 ・ 配 当 金	1,029	960
雑 収 入	904	1,289
営 業 外 費 用	774	973
支 払 利 息	494	529
雑 損 失	279	444
経 常 利 益	1,276	1,916
(特 別 損 益 の 部)		
特 別 利 益	388	922
投 資 有 価 証 券 売 却 益	182	533
固 定 資 産 売 却 益	183	357
そ の 他 の 特 別 利 益	22	32
特 別 損 失	6,162	4,142
事 業 構 造 改 善 費 用	5,443	3,788
固 定 資 産 廃 棄 損	346	326
そ の 他 の 特 別 損 失	373	27
税 引 前 中 間 純 損 失	4,497	1,302
法 人 税 、 住 民 税 お よ び 事 業 税	65	68
過 年 度 法 人 税 等 戻 入 額	505	283
法 人 税 等 調 整 額	1,293	81
中 間 純 損 失	2,763	1,006
前 期 繰 越 利 益	2,841	2,409
中 間 未 処 分 利 益	77	1,403

(注) 1 株 当 た り の 中 間 純 損 失

7 円 21 銭

2 円 61 銭

(備 考) 記 載 金 額 は 百 万 円 未 満 を 切 り 捨 て て 表 示 し て お り ま す 。

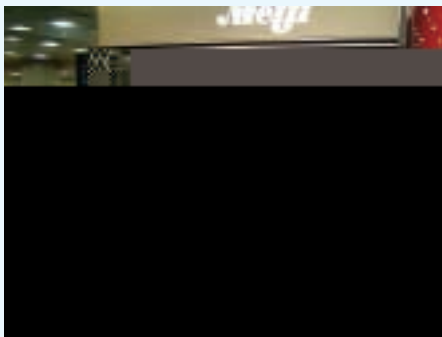


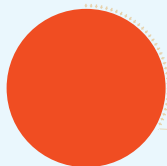
薬品

ヘルスケア製品

トピックス

東日本キヨスク株式会社とのコラボレーションにより、東京駅八重洲北口に綺麗でおしゃれなKIOSK「チョコスク」が本年9月30日にオープンしました。「チョコスク」は東京駅の新しいランドマークとしてふさわしく、若い女性でも気楽に立ち寄れるよう上品なゴールドを基調としたハイクオリティなイメージで演出しています。また、店舗自体をひとつのメディアとして位置付け、大型プラズマディスプレイなどでブランドメッセージや様々な素敵な情報を発信していくことを目指しています。





アンチエイジング・ サプリメントの 「カラダナビ」

昨年9月に発売しました「カラダナビ」ブランドは、団塊世代（アクティブシニア）を中心とした40～60歳台を主要顧客と捉えた商品群です。

「カラダナビ」は、当社が薬品事業と食料事業で培った「確かな効果とおいしさ」に関するノウハウを背景に、カラダを本来あるべき健康な状態へナビゲートしていく、総合ヘルスケアブランドです。

メインとなる商品の「プレサプリ」は、フラクトオリゴ糖と各種の抗酸化作用物質から構成され、加齢により機能が低下する腸管や血管を健康な状態に維持することで、健康を保つ機能の低下予防商品です。

今春からはテレビCMにタレントの樋口可南子さんを起用して、「アンチエイジング・サプリメント」として訴求し、また、新聞、雑誌などで「プレサプリ」を中心とした商品内容を説明した広告を投入し、商品の特長のアピールを図っております。

本年3月には、運動を楽しく無理なく続けるためのサプリメントとして「クエン酸飲料」と「CoQ10」の2品、また9月には一粒で牛乳約2.2本分のカルシウム500mgと納豆約5パック分のマグネシウム250mgが摂取できる「特濃カルシウム&マグネシウム」（ソフトキャンデータイプ）を発売しました。ぜひご利用ください。

「カラダナビ」に関するお問い合わせ先
明治製菓株式会社 健康サポートダイヤル
フリーダイヤル 0120-858660

受付時間：9:00～12:00 13:00～17:00（土・日・祝除く）

「健康食品」の 通信販売事業を強化

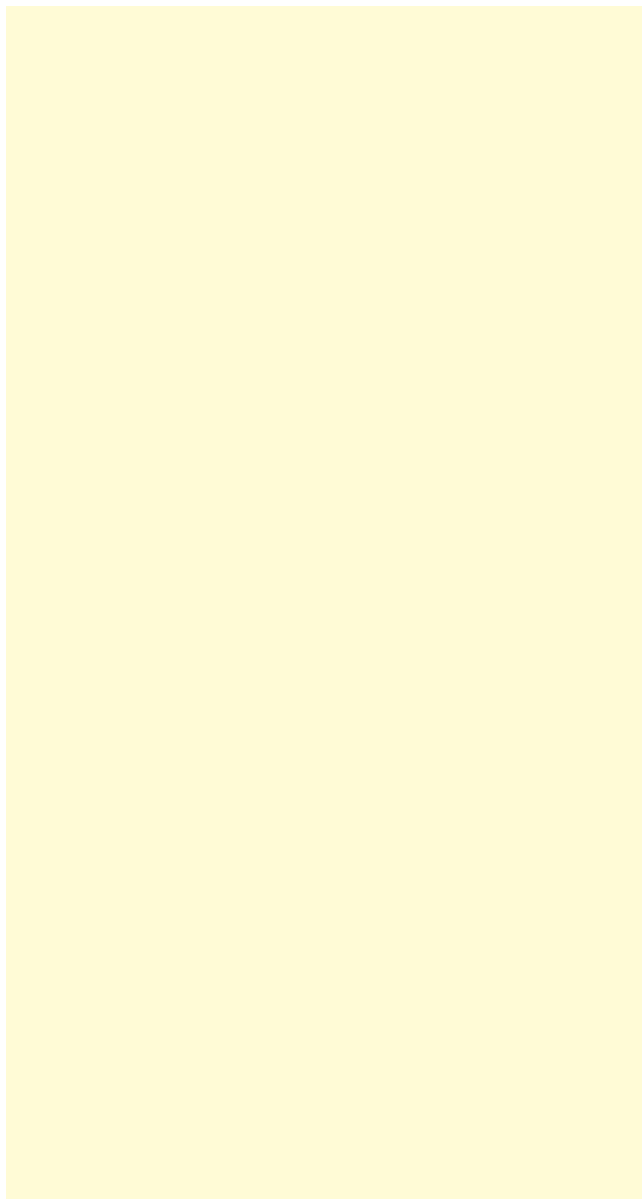
当社は、ホームページのショッピングサイトに健康食品の商品を掲載して通信販売を行ってまいりましたが、さらなる事業拡大に向けて本年7月にヘルスケアカンパニー内に専門組織を設置しました。

また、これと並行して、通信販売のみでご提供する商品をご用意いたしましたので、ぜひご利用ください。

新聞・雑誌等のマスメディアを活用した宣伝広告も行い売上の拡大を図ってまいります。

役員

(平成16年9月30日現在)



(平成16年9月30日現在)



東京都中央区京橋二丁目4番16号



株主メモ

お問い合わせ先
〒104 - 8002
東京都中央区京橋二丁目 4 番16号
電話(03)3273 - 3353(総務法務部)